

長野県は、「適材適所・適宜・適量」な 新潟県中越地震被災者の支援を行っていきます。

長野県では、これまでの物資および人的な支援に加え、避難所生活が長期化し、肉体的にも精神的にも疲労が心配される被災者およびボランティアの方々に、県内数多くの温泉施設で無料でお休みいただくための支援体制を構築しました。

また、余震におびえる子供たちに楽しく絵本の読み聞かせを行うため、クレヨンや画用紙、そして絵本をプレゼントに持って「おはなしパケット号」を派遣し、あわせて保健師やスクールカウンセラーを同行させ心のケアを行うなど、以下のとおり「適材適所・適宜・適量」の総合的な支援体制を構築してまいります。

○ 県内の温泉施設に被災者およびボランティアの方々に無料で受け入れます。

長野県では、これまでの物資および人的な支援に加え、避難所生活が長期化し、肉体的にも精神的にも疲労が心配されるお年寄りや子供をはじめとした被災者の方々、そしてボランティア活動にご尽力されている方々にも、北信地域を中心とした温泉施設で長期・短期で無料でお休みいただくための支援体制を構築しました。また、県所有の(旧)ホテル白鳥園は、お年寄りをはじめ介護を必要とする方々にもご利用いただける施設として早急に整備中です。

- ・ 各被災地から温泉施設までは、無料のシャトルバスを往復運行します(協力:長野県バス協会)。
- ・ 県が窓口となって利用していただける温泉施設は以下のとおりです。
【日帰り施設】ぼんぼこの湯(中野市)、トマトの国(下水内郡栄村)、湯つ蔵んど・古城荘(須坂市)
【宿泊施設】名月荘(千曲市)、(旧)ホテル白鳥園(千曲市)および信濃町などの民間宿泊施設

○ 心のケアを含め総合的な支援を行う「被災地支援キャラバン」を派遣します。

長野県は、被災者の方々の心のケアや物資支援、ご要望承りなど、支援全般をパッケージ化・総合窓口化した「被災地支援キャラバン」を編成、避難所等被災地へ派遣し、現地で活動するボランティアと連携しながら、被災者の目線に立ったきめ細かい温もりのある支援をさらに充実させます。

- (1) 移動図書館「おはなしぱけっと号」を派遣します。
子どもたちに読書を楽しむ機会を与える移動図書館「おはなしぱけっと号」が被災地の避難所等を訪れ、絵本の読み聞かせを行ったり、クレヨンと画用紙を持参してお絵かきをしてもらうなど、地震におびえる子どもたちの心を少しでも癒す時間を提供します。また同時に保健師やスクールカウンセラーを派遣し、子どもたちの心のケアを行います。
- (2) ボランティアの派遣依頼受付や支援物資の要請受付、長野県内の空き家情報の提供など、長野県が提供する支援サービスの総合受付窓口を設置します。

○ 県独自の募金窓口として「新潟県中越地震義援金」を設け、県民の皆様をはじめ全国の方々のご協力により、既に1千万円を超える募金が集まっています。

集落が寸断された中山間地域で余震が今なお続く今回の震災は、被災者の方々が元の生活を取り戻されるまでに、かなりの時間を要すると思われます。長野県は、阪神・淡路大震災における田中康夫知事の経験に基づき、生活用品などの支援物資に留まらず、精神的なサポートを積極的に行ってまいります。

こうした活動をより充実させるために、長野県独自に「新潟県中越地震義援金」の受付窓口を設けました。県庁及び現地機関でお受けするほか、県内外の郵便局や金融機関での振り込みも可能です(11月5日(金)まで)。

さらに、しなの鉄道(株)の協力を得て、すべての駅構内に募金箱を設置します。

これまでの長野県の支援活動については、県ホームページ
<http://www.pref.nagano.jp/> をご覧ください。

経営戦略局

担当:松林憲治、藤森靖夫(秘書広報チーム)、武田雅宏(信州ブランド戦略チーム)

電話:026-232-2002、026-235-7253(直通)、026-232-0111(内線2012、3551)

FAX:026-235-6232、026-232-2637

E-mail:koho@pref.nagano.jp,brand@pref.nagan.jp